

## 後楽町の村木さんが100歳迎える 家族に囲まれ長寿のお祝い

後楽町の村木ツネさん（大正3年生まれ）が7月23日で満100歳の誕生日を迎えました。同日、村木さんの自宅を佐藤町長が訪れ「おめでとうございます。これからも元気に長生きしてください」とお祝いの言葉を掛け、長寿祝い金を手渡しました。当日は100歳の誕生日を祝うために駆け付けた子どもや孫など大勢の家族に囲まれ、笑顔を見せる村木さん。相撲と果物が好きだという村木さんに長生きの秘訣を伺うと「3食しっかり食べて、1日1回近所を散歩すること」と元気に話してくれました。



## 夜空を彩る4千発の花火 夏の風物詩、観客を魅了

山田町商工会青年部（阿部基部長）主催の第8回やまだの花火大会が、山田魚市場隣接の特設会場で行われました。今回は帰省客にも楽しんでもらおうと、お盆中の8月14日に開催。会場は、大勢の観客でにぎわいました。打ち上げの前にはカラオケ大会のほか、お笑い芸人やミュージシャンなどによるイベントなどを開催。会場は打ち上げ前から熱気に包まれました。午後7時半からは待ちに待った花火の打ち上げ。夜空を彩る花火は、大輪の花が咲くたび沸き立つ観客らの頬も染めていました。

## 小・中学生ら町内の名所探訪 山田の歴史と自然に触れる

山田町社会福祉協議会と（公財）国際開発救援財団（ファイダー）の共催でことしで3回目となる「サマーチャレンジやまだ2014」が夏休み中に開催され、料理や工作などの計6教室に多くの小・中学生が参加しました。8月8日には15人が町の歴史や自然に接することができるスポットを探訪。金塚石碑群や多久里の滝、漣磯海岸など7カ所を巡りました。ことし4月に県内矢巾町から転居してきた二木慧心さん（山田南小3年）は「山田は自然が多くて、気に入った」と笑顔で話していました。



## 本町出身の大川さんが切り絵展 町内外の風景を独自に表現

群馬県在住で船越出身の大川勤さん（64）による切り絵展が、8月8日から10日まで街かどギャラリーで開かれました。大川さんの切り絵は、切り絵独特の繊細な線取りをしつつも、雪の柔らかさなど風景を写実的に描くために、あえて原則から離れた独自の表現をしているのが特徴。大川さんは「切り絵の魅力は、自分の妥協が絵に表れてしまうためごまかしが利かないこと。懐かしい風景なども題材にしたので、訪れた人に絵を見て心を安らいでもらえれば」と個展に掛ける思いを語ってくれました。



# 町のあだい

今月の題字 糠森 ひかる 光君 (織笠小2年)



## 震災後初めて神輿が練り歩く 魚賀波間神社例大祭を開催

8月3日、魚賀波間神社（上澤富士夫宮司）の例大祭が大沢地区において執り行われました。震災前から休止していた同神社のお祭りも、震災後に地区の住民を元気付けようと昨年に引き続き2年連続の開催。震災前からしばらく休止していた神輿による渡御も実施するなど、昨年以上に盛り上がりを見せました。待ちに待った神輿が沿道に現れると、詰めかけた住民らは久々の勇壮な姿に感激した様子。神輿に加えて大澤大神楽、大沢虎舞、山谷獅子踊りの3団体が地区中心部や仮設住宅を練り歩き、大沢地区は祭りのお囃子に彩られていました。



## 山田高校の生徒が職場体験 仕事の難しさに悪戦苦闘

8月5日から7日にかけて、山田高校（佐野茂樹校長）の2年生49人が職場体験を行いました。これは仕事を体験することでその意義などを学び、進路選択のきっかけにしてもらおうというもの。生徒らは、町内外19カ所の事業所の協力の下、希望する職場を訪問しました。スーパー・びはんプラザ店では、2人の生徒が棚卸し作業を体験。佐藤孔太君は「サービス業に興味があった。見た目と違いきつくて大変」と真剣な表情で話していました。

※この記事と写真は、町総務課へ職場体験に訪れた湊俊樹君（山田高校2年）が取材し、作成したものです。

